令和7年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
宮崎市の結果について　　宮崎市教育委員会

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査の対象

（１）小学校第６学年（全児童対象）

（２）中学校第３学年（全生徒対象）

Ⅱ　調査結果概要

１．小学校第６学年　教科に関する調査【国語・算数・理科】の結果

全体の傾向	教科に関する調査の平均正答率は、国語は全国平均を上回り、算数と理科においては、全国平均を下回った。
国語	○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる」問題については、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ▲「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題については、全国の平均正答率を下回り、課題が見られる。
算数	○「台形の意味や性質について理解しているかどうかみる」問題については、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ▲「簡単な二次元の表から、条件にあった項目を選ぶことができるかどうかをみる」問題については、全国の平均正答率を下回り、課題が見られる。
理科	○「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる」問題や「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているどうかをみる」問題については、全国平均正答率を大きく上回っている。 ▲「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題については、全国平均正答率を下回り、課題が見られる。

２．中学校第３学年　教科に関する調査【国語・数学・理科】の結果

全体の傾向	教科に関する調査の平均正答率は、すべての教科において、全国平均を下回った。　※理科においては、ＩＲＴスコア（注１）で全国と比較
国語	○「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題については、全国平均正答率を上回っている。 ▲「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題については、全国平均正答率を下回り、課題が見られる。
数学	○「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題については、全国平均正答率を上回っている。 ▲「素数の意味を理解しているかどうかみる」問題については、全国平均正答率を下回っており、課題が見られる。
理科	▲ＩＲＴスコア平均は全国平均より下回っている。 ▲ＩＲＴバンド分析は、全国と比べて４が少なく２が多い。 ※今回の中学校理科については、オンラインによるＩＲＴ方式を導入している。この方式では、学校によって実施日が異なり、実施日ごとに異なる問題が出題されている。また生徒によっても出題される問題が違うことから、公開されている全国平均正答率の比較によって、市全体の傾向を分析することは適切ではないと考える。（公開問題１０問、非公開問題１６問）

注１：問題の難易度や受験者の解答パターンを考慮して個人の学力や能力を数値化したスコア

３．小学校第６学年・中学校第３学年　学習習慣・生活習慣等に関する調査結果

（１）全体の傾向

○　ほとんどの質問項目において『当てはまる』など、肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、全国平均より高かった。ただし、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらい時間、勉強をしますか」等、全国平均より低い回答となった質問も一部見られた。

（２）宮崎市の目指す「未来の学校」づくりに関する質問項目について

【自分自身のことについて】

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に、『当てはまる』と回答した児童・生徒の割合が、全国平均より高かった。

【他者との関わりについて】

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「友達関係に満足していますか」の質問に、『当てはまる』と回答した児童・生徒の割合が、全国平均よりも高かった。

【社会との関わりについて】

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に、『当てはまる』と回答した児童・生徒の割合が、全国平均より高かった。

【学習について】

○「５年生までに／１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、『当てはまる』と回答した児童・生徒の割合が、全国平均より高かった。

○「５年生までに／１、２年生のときに受けた授業では、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に、小学校においては『当てはまる』と回答した児童の割合が全国平均より低かったが、中学校においては『当てはまる』と回答した生徒の割合が全国平均より高かった。

○「学級の友達／生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に、小学校においては『当てはまる』と回答した児童の割合が、全国平均より高かったが、中学校においては『当てはまる』と回答した生徒の割合が、全国平均より低かった。

○「（調査のあった教科名）の勉強は好きですか」という質問に、小学校においては全教科で、中学校においては数学と理科で、『当てはまる』と回答した児童生徒の割合が、全国平均より高かった。